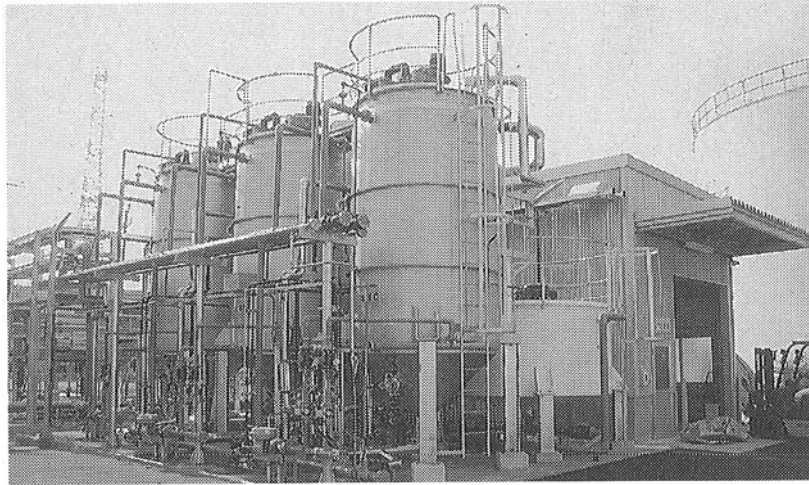


塩化カリウム生産設備 = 製塩後のにがりを冷却後(左側タンク)、遠心分離機で脱水し製品化(右側建物)



塩化カリウム生産設備を稼働

..... 日本海水

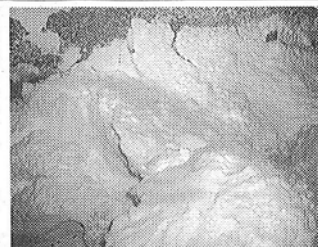
年間生産量 1千500 t



日本海水は農業用肥料として塩化カリウムの生産を開始した。1月7日に赤穂工場において、塩化カリウム生産設備の竣工式を実施。製塩を行った後に発生するにがりから塩化カリウムを生産し、海水の有効利用を進めるもの。年間生産能力は2千tだが、初年度は1千500tの生産を予定しており、今後は肥料メーカーに販売する計画。販売が軌道に乗れば将来的には小名浜工場(福島県いわき市)や讚岐工場(香川県坂出市)での生産も検討し、生産体制の強化も視野に入れている。

同社はイオン交換膜製法で5割超のシェアを保有しているが、少子高齢化や減塩志向などによる塩の需要がシュリンクしている環境下、海水事業の展開を事業の柱としており、塩事業の体質強化を推進しつつ、水・農業・食品などの新たな事業領域への進出を積極的に目指している。

フロンやバラで出荷予定



塩化カリウム